

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:28.

小児科外来における血友病患児への自己静脈注射指導

渋谷 富美子, 福田 尚子, 野村 理賀子, 平瀬 美恵子

小児科外来における血友病患者への自己静脈注射指導

旭川医科大学病院 外来ナースステーション

○渋谷富美子 福田尚子 野村理賀子 平瀬美恵子

キーワード：エンパワーメント、血友病家庭注射療法、自己静脈注射指導

【はじめに】小児科外来で血友病患者へ家庭注射療法である自己静脈注射(以下自己注射)指導を行った。その介入経過を振り返り、示唆を得たので報告する。

【目的】血友病患者への自己注射指導の看護実践経過を考察することで、血友病患者・家族への外来での看護を明らかにする。

【方法】期間：2017年8月18日～9月30日 対象：D君(10代、血友病A)と母親 研究の種類：事例研究 研究方法：患児の記録から、患児・家族の言動と看護師の関わりを研究者間で質的に分析し4期に分けタイトルをつける。

【倫理的配慮】患児の母親に、この研究における主旨を説明し口頭での内諾を受け、C大学の倫理委員会の承認を得て研究を実施した。本演題発表に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

【結果】1期：自己注射指導を導入した時期は、指導経験がないため他施設の指導内容を参考に看護師間でD君の情報を共有し、患児・母親との関係性を築くことを優先し介入していた。2期：自己注射指導が中断した時期は、D君の自己注射への恐怖・抵抗感から、看護師は自己注射への意欲が更に低下しないように焦らず見守っていた。3期：血友病患者としての行動変容がみられた時期は、患児自身が修学旅行までに自己注射ができることを目標にし、積極的に練習に取り組んでいた。看護師はD君の興味があることから血友病の自己管理に繋げ指導していた。4期：家庭内注射ができた時期は、看護師が悩み苦ししながら母親・医師と共にチームとして検討し関わり、自己注射ができるようになっていた。

【考察】看護師は、D君が自己注射の手技習得だけではなく、血友病についての知識を持ちセルフケアが出来るようにエンパワーメントを支援していたと思われる。自己注射指導は、慎重に導入時期、患児・家族の意思、家族のサポートを確認して行うことが重要である。患児に対しチームとして家族・看護師・医師と協力し効果的なアプローチから自己注射ができたと思われる。看護師は患児・家族との関係性を構築し成長発達に応じて自らの力で主体的に生きていく事が出来るように関わっていく事が重要である。

【結論】

1. 小児科外来でも血友病患者への自己注射指導は可能である。
2. 小児科外来の看護師は患児と家族のエンパワーメントを支援する必要がある。
3. 小児科外来では、患児・家族との関係性を構築しチームでアセスメントする必要がある。